

保護者のみなさんへ目

【主に小学校低・中学年の保護者】

音読不足の影響は 如何に

「〇〇世代」といった言葉を耳にすることがあります。その時代その時代での世相が人の成長に影響を与え、その時代特有の性質や傾向を呈することを表す造語です。

今、巷から「コロナ世代」という言葉が、ちらほら聞こえてきます。たくましさや強調するイメージであればよいのですが、劣る部分の特徴づけるのであれば、いささか穏やかではいられません。

さて、コロナ禍において、子供たちの生活の中で、圧倒的に不足するのではないかと心配していることがあります。

それは、感染症対策として、発声が制約されることによる影響です。教育活動において発声といえ、音読しかり、歌うことしかりです。例えば、古くから学習風景といえ、よい姿勢で声を出して教科書を読む場面が映し出されます。子供たちにとって、発声は事柄を身に付ける際の有効な学習方法の一つなのです。特に幼少期には、最も重要であることは言うまでもありません。書かれています文字を追い、声に出す。いわば言葉を体得しているといってもよいでしょう。正しく読んでいるのかどうか自分自身で分かることが、正しい言い回しの習得へのプロセスでもあります。日本語は言葉の微妙な使い方によって、繊細な心情を表現しています。

その鍵になるのが「てにをは」の使い方です。これが正しく理解できていないことが、読解力不足の一因とも指摘されています。

想像していることが伝わってくる音声と乖離しているとすれば、コミュニケーションをとる上で、さまざまなトラブルにつながりかねません。声を出して読むことは、読解や表現、思考を深める役割を果たします。だからこそ、学校では音読を重要視し、時間をかけて指導しているのです。

しかし、発声が制約されている以上、学校での音読学習がままなりません。マスク越しに、か細い声での音読しかできない状態にあるのです。これにかわる勉強法や十分な音読ができる環境づくりを思索しているのですが、妙案が見つからず、私の無能さを痛感しています。

そんな中、満足のいく音読機会を確保する手段はただ一つ。家庭での音読を進めることであると思います。もちろん小学校低・中学年が対象となりますが。本来、不足分を家庭学習に委ねるとするのは筋違いです。しかし、家庭での学習に頼るしかないことを理解してもらいたいと思います。音読の質・量ともにカバーできるかどうかは、家庭の協力にかかっています。

私の切なるお願いです。
家事のかたわら、子供の音読に耳を傾け、やる気を引き出す言葉をかけてもらいたいのです。将来、会話が正しく成り立たない場面において「コロナ世代だからな」と揶揄されるようなことがあってはなりません。

令和二年六月二十六日

海田町教育委員会

教育長 佐々木 智彦